

## 令和元年度 第1回下野市健康づくり推進協議会 会議録

日 時 令和元年7月18日(木) 午後1時30分～午後3時30分  
場 所 下野市保健福祉センターきらら館 研修室  
出席委員 春山早苗委員、村田光延委員、黒田裕之委員、倉井金男委員、上野文夫委員、齋藤好子委員、菅井貞雄委員、川田則之委員、増山郁子委員、小谷光子委員、桑久保有沙委員、小島恒夫委員、木村千里委員、大橋俊子委員、瀬下忠司委員  
欠席委員 大関啓子委員、木村一枝委員  
事務局 近藤課長  
成人保健グループ： 間板主幹、横田副主幹(保健師)、菊地主査(保健師)、山崎主事(管理栄養士)、萩原主事(保健師)、佐藤主事(保健師)  
母子保健グループ： 生井課長補佐(保健師)  
※自治医科大学看護学部4年生4名見学  
配付資料 次第  
下野市健康づくり推進協議会委員名簿  
資料1 成人保健事業概要について  
資料2 母子保健事業概要について  
資料3-1 しもつけ21プラン庁内各課の取り組み《平成30年度評価表》  
資料3-2 しもつけ21プラン地域団体の取り組み《平成30年度評価表》  
健康しもつけ21プラン(第3次)概要版  
医療用ウィッグ及び乳房補正具購入費助成チラシ  
ラジオ体操普及事業啓発チラシ

### 1. 開 会(開会、進行：間板主幹)

### 2. 自己紹介

事務局→委員の順で行う。

### 3. あいさつ(春山会長)

### 4. 議 事(春山会長進行)

#### (1) 保健事業の概要について

(事務局より、資料1・2に基づき説明)

(村田副会長) 成人保健・母子保健のそれぞれの課題をこれというものがあれば1つだけ教えてほしい。

(事務局) 母子保健の課題は、2歳児歯科検診である。昨年度県の調査支援研究に保健師が参加し、事業の評価を実施した。3歳児健診を受けた方の、2歳児歯科検診時の状況について、後追い調査を実施したところ、2歳3か月前でのアプローチが必要であるという結果が出た。2歳3か月前のアプローチをどのように行っていくかが今後の課題である。

成人保健の課題としては、昨年もこの会で話題にさせていただいたが、健康づくりに関する教室を色々と実施しているが、参加者が少ないことである。参加者と話をすると、周りには健康づくりに興味があり、気にしている方も多いが、参加する人はいつも同じ方ばかり、という声も聞こえてきているのが現状。

今後は健康推進員さんにも協力をいただきながら周知等を行っていきたいと考えている。若い方への周知も広めていきたいと考えている。

(春山会長) それぞれ課題が出たが、委員の皆さまより何かご意見等あるか。

(菅井委員) 成人保健Gの2ページ。平成30年度の人間ドックの受診数がかなり減っているが、この原因は何か？

(事務局) 人間ドックの担当課は市民課であるが、確認ができていないため、確認し次回ご説明したい。

(村田副会長) 29年度から30年度で補助金が減ったのが原因ではないかと思う。人間ドックは必要最低限の特定健診以外の検査も入っているので、公平性を保つために、個々人の希望でやっていただく検査については自分でお金を支払って受けていただくということである。

(春山会長) 今まで人間ドックで受けていた方が、市の集団検診や個別健診に回っていて、全体としての受診率が上がっているということとも考えられる。

(上野委員) 私も毎年人間ドックを受けているが、毎年人間ドックで受ける人と、今年は人間ドックで胃カメラを飲む来年は市の健診でバリウムにする等使い分けている方も確かにいる。

(春山会長) 課題については、母子のほうで県の調査研究事業で評価をして、方向性を見出したように、成人についても、今していることに人を集めるべきなのか、大きくやり方を変えるべきなのか評価をしてみるのが大事だと思う。たくさんあるが、手の付けられるところから評価してみるのが大切であると思う。

(村田副会長) 去年と同じ課題が上がっているが、それに対して、昨年から今年度にかけて取り組んだことがあれば教えてほしい。

(事務局) 土日のヤング健診受診者に対し、検診終了後個別にヤング指導を行ってきたが、検証結果、全体のヤング健診対象者に対して、数パーセントしか指導ができていなかったことがわかり、費用対効果等も踏まえ、今年度からまずは受診者を増やすことに重点を置き、ヤング健診対象者に個別通知でアプローチすることとした。  
また、動機づけ支援を直営で行っているが、毎年引っかかってしまう方が同じ内容での指導になってしまうため、初参加の方と2回目以降の方の支援の内容を変更したり、グループ支援を取り入れ、変化を持たせて行った。

(春山会長) いろいろ工夫をしてきていることが分かった。  
母子のほうでは、2歳児歯科健診の課題が出ていたが、黒田委員よりご意見をうかがえたら。

(黒田委員) 2歳児健診は市の単独のフッ素塗布時に行っているが、2歳児健診は1歳半や3歳児健診時のようにブラッシング指導もなく、検診のみで終わってしまっているため、どうかという思いはある。2歳児歯科検診は2回しか行っていないこともあり、1歳半健診が終わってからだいぶたって2歳児歯科健診を受ける方もいる現状があり、調査の結果を含めて、市から相談を受けている現状である。今後の方向性については、2歳になったら検診を受けられるようにするなど、どういう形で行っていくのかを相談中である。

(春山会長) これらの事業にも関連してくることで、しもつけ21プランの評価を行うこととなっているため、プランの評価について報告をいただき、さらに話し合いを進められたらと思う。

## (2) 健康しもつけ21プラン

### 平成30年度評価 庁内各課の取り組み について

(事務局より、資料3-1、続いて3-2に基づき説明)

(春山会長) プランに向かって庁内各課、地域団体の皆さまが取り組まれていることが分かった。皆さんがこのプランに関心を向けること、できることを取り組んでいくことが大事だと考えている。  
昨年度の取り組みや今年度の取り組みに向けての抱負などあれば、皆様から一言づついただきたい。

(黒田委員) 各診療時にそれぞれで歯周疾患や喫煙に関する話はしているが、同じ形でできていない現状もある。小山歯科医師会で集まった機会に同じ方向性を向いて指導ができるように話をしていきたいと思う。

(倉井委員) 民生委員だが、高齢者もいてあまり医学的な知識もないため、健康増進課で、チラシ等を作ってもらって、それを配布しながら市の現状等を伝え、少しでも知識を広めていきたい。それを継続していきたい。

(上野委員) 評価表をよくまとめてくれた。評価表を見てd判定もあり、何かできなかったのかという反省もある。各地域の推進員ともう少し連携を取りながら、やっていきたい。

(春山委員) 健康推進員さんは、項目も多いので少しずつ進めていただけたらと思う。

(小谷委員) 保護者の生活スタイルの多様化があるので、このような評価指標があると大変助かる。職員も前向きに取り組んでくれていた。9ページの訂正→誤) 正) 納得

今後は、チラシやポスターを機会があるごとに保護者に提示できたらと思う。

(斎藤委員) 毎日の食事について活動している。野菜 350g の摂取、塩分 2g 減を進めている。人によって大さじの測りかたも違い伝え方も難しい。いろいろな工夫が必要。今後も工夫しながら活動していきたい。

(菅井委員) 30 年度はなかなか活動できなかった。あまり顔を合わせて活動する機会がなく、伝える機会が得られなかった。今年度は総会でプランの内容を伝え、少しずつ活動を始めたところ。自治会長連絡協議会は、組織として動いているのではなく、130 近くある各自治会がそれぞれの動きをしているので、それぞれがどんな動きをしているのか把握が難しい。しかし自治会は全市内、全年齢の方をカバーできるため、今後も何かの機会を捉えて活動していきたい。

(春山会長) 主催は高齢福祉課だが、おとしから看護学部が自治会単位で健康に関する調査を行っており、現在 11 地区に調査の協力を得ているが、高齢者だけでなく成人の生活習慣に関する調査も行っている。この活動も自治会の活動に入れてもよいのではないかとも思う。

(川田委員) 色々な会議に出て、色々な情報を教えていただくが、その情報を伝える機会がなかなかないのが現状である。しかし、通常の生活の中でがん検診の通知等が来ても、自分の仕事や子供のことで忙しい、また結果を見るのが怖いという理由でなかなか受診に行っていないという話を聞くこともあるため、色々な情報を伝えることは大切だと思う。何かの機会ですべて伝えていけたらいいと思っている。

(春山会長) できることを探っていただくことも大事だが、自治会との協力や養護教諭部会と一緒に動くというのも一つの方法になるかと思う。

(増山委員) 集まる機会が決まっており総会くらいしかないが、お饅頭を作る機会にはたくさんの参加者がいるので、そういう時に今年度は何かしら活動できればと考えている。

(桑久保委員) 月 1 回養護教諭部会で集まりがあるため、その中でまた色々と情報交換しながら、取り組んできたい。また健康増進課とも思春期講座や心の健康教室で協力いただいているため、さらに連携を図り活動していきたい。

(小島委員) ラジオ体操を進めているが、人が集まる場所を作ることが始まりだった。なかなか情報を伝達する場がない、という話がでていたがやはり工夫が必要。もっと地域に出向くことを考えていけるとよいと思う。

個人的には、さくらクリニックで栄養指導を受けている。個別で指導を受けるメリットも感じているところ。食事の写真を撮って見ていただいているが、分かりやすくとても良い。予防医学が重要と考えている。その他にも「男の広場」という活動を行っており、70 代前後の方の集まりで、何かしらみんな病気を持っているが、そこで色々な健康に関する勉強会を行っている。市民自身も問題意識を持つことが大切。情報を伝える手段を色々と考えていくことが必要。

(木村千委員) 昨年度、自分の自治会の中で情報発信を試みたが、なかなか自治会の中で取り上げられなかったのが残念だった。やはり自治会が動いたほうが良いのではと思っている。その結果を自治会協議会に挙げていく流れが良いと思う。

(春山会長) 全体を管轄している立場での意見として、市内でも色々なことを行っているのだから、この資料を色々な部署で共有していくことが必要だと思う。これをもとに来年比較をしながら行っていくことが大切。他市町でも同じように計画を作っているが、年代別で取り組みをあげているのは、下野市のみ。この評価の概要版があるといいのではないかなと思う。

(村田委員) 小山地区医師会の立場として、生活習慣の是正を日々行っている中で、行政でこのプランを含め、予防に関するコンテンツを作っているため、市と連携してやっていけたらよいと思う。

私としては、市との連携のモデルケースとして、社会的処方を進めていき、市内の先生方にこんな風にやっているとよいということを伝えていきたい。担当医としてこの人にとって、何を進めていけばよいか、担当医が示唆する。それができるように社会的な資源として何があるかを自分たちが知っていく必要がある。もう一つのコンテンツとして、なにか動画で伝えることができるかと思っている。例えばはつらつ体操を動画で作り待合室で流すなどできたらよいと思う。

(間板) ヘルスプロモーションの考え方に基づき、地域組織のみなさんが少しずつ後押しをしていけるような形を作っていければよいと思う。今後ともご協力をお願いしたい。

(春山委員長) 情報の発信については、色々な方法があると思う。動画を作る場合には、自治医大でも協力ができるので、声をかけていただければと思う。

#### (4) その他

- (事務局)
- ・骨髄移植ドナー支援事業奨励金について (H30 年度から実施：実績報告)
  - ・ラジオ体操普及事業について (R 元年度から実施。概要説明)
  - ・2 回目の会議については、11 月ごろを考えているので、よろしく願いしたい。

## 7. 閉 会